

歴史的事象を自分との つながりから考えられる児童の育成

—— 単元の学習問題を二つ設定することを通して ——

長期研修員 細谷 直樹

《研究の概要》

本研究は、小学校歴史学習において、問題解決的な学習過程の中に二つの学習問題を設定することにより、歴史的事象を自分とのつながりから考えられる児童を育成することを目指したものである。

具体的には、単元の最初に学習問題①(単元の学習内容の追究を目指すもの)と学習問題②(学習内容と自分とのつながりを思考するもの)を設定する。児童は単元を通して、学習問題①を追究しながら、学習問題②の視点で思考していく。学習内容を、常に自分とのつながりから思考していくことで、歴史的事象を自分とのつながりから考えられる児童の育成を目指すものである。

キーワード 【社会—小 問題解決的な学習過程 二つの学習問題 自分とのつながり】

群馬県総合教育センター

分類記号：G02-02 平成30年度 267集

I 主題設定の理由

小学校学習指導要領(平成29年3月公示)社会科の目標は「社会的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成者に必要な公民としての資質・能力の基礎を(中略)育成することを目指す」である。今回の改訂では、その基本方針の一つとして主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善の推進が挙げられている。その取組を進める上で重要とされているのは、学習活動の質を向上させることや見方・考え方を働かせること、単元や題材など内容や時間のまとまりの中で学習を考えていくことなどとされている。群馬県教育委員会の平成30年度学校教育の指針でも、指導の重点として「児童生徒の疑問や驚きを基に、目指す児童生徒の姿につながる単元の課題を設定しましょう」と示されている。

これらの点を踏まえると、これからの社会科には、児童に社会的な見方・考え方を働かせるような手立てを講じながら、問題解決的な学習の充実を図ることが大切であると考えられる。

また、小学校学習指導要領解説社会編(平成29年7月)第6学年内容の取扱い(2)のキには、「歴史学習全体を通して(中略)現在の自分たちの生活と過去の出来事との関わりを考えたり、過去の出来事を基に現在及び将来の発展を考えたりするなど、歴史を学ぶ意味を考えるようにすること」とある。つまり、歴史学習を単なる事実認識に終わらせることなく、歴史を学ぶ意味を考えながら理解していくことの大切さも求められている。

研究協力校(以下、協力校)の歴史学習に関するアンケートから児童の実態を考えてみると、歴史を学ぶ役割を知識を身に付けることと捉えている児童も多く、歴史から何が学べるのか、歴史をなぜ学ぶのかなど歴史を学ぶ目的や大切さについてまで考えている児童が少ないことが分かった。その原因としては、児童が歴史学習で学ぶ歴史的事象を身近に感じられなかったり、学習の中で思考する場面が少なかったりすることがあるのではないかと考える。

この点を踏まえると、小学校社会科の歴史学習では、学習内容を自分とのつながりから思考させることで、歴史的事象を単なる事実認識にとどめることなく、歴史を学ぶことの大切さについてまで考えさせていくことが重要になってくる。

そこで本研究では、小学校社会科の歴史学習において、単元の学習問題の設定を工夫することで、主題に迫りたいと考えた。具体的には、問題解決的な学習過程の中に二つの学習問題を設定することである。一つは単元の学習内容の追究を目指すもの(学習問題①)、もう一つは、学習する歴史的事象と自分とのつながりを思考するもの(学習問題②)である。学習問題①を追究しながら、単元全体を通して学習問題②の視点で思考していくことで、歴史的事象を自分とのつながりから考えられる力を身に付けさせることができると考え、本主題を設定した。

II 研究のねらい

小学校社会科歴史学習において、歴史的事象を自分とのつながりから考えられる児童を育成するために、単元の学習問題を二つ設定したことの有効性を明らかにする。

III 研究仮説(研究の見通し)

- 1 「つかむ過程」において、単元の学習問題を二つ設定することにより、単元を通して「何を調べ、何を考えるのか」ということを理解し、単元の見通しをもつことができるであろう。
- 2 「追究する過程」において、各時間の学習内容を学習問題②の視点で考えることにより、学習内容と自分とのつながりを思考し、自分なりの考えをもつことができるであろう。
- 3 「まとめる過程」において、学習問題②についての考えを交流し、自分の考えを広げ深めることに

より、歴史的事象を自分とのつながりから考えることができるであろう。

IV 研究の内容

1 基本的な考え方

(1) 「自分とのつながりから考える」とは

歴史的事象が自分とどのようにつながっているかを考えることである。これは自分の生活する社会とのつながりを考えることも含むこととする。

(2) 「歴史的事象を自分とのつながりから考えられる児童」とは

学習する歴史的事象を自分とのつながりから思考することで、歴史を学ぶ意味についても考えられるようになる児童のことである。そのような児童は、過去の出来事と今日の自分たちの生活との関連や、歴史から学んだことをどのように生かしていくかなどを考えることができるようになる。具体的には、歴史上の人物について学んだ際には、その人物の生き方を自分の生き方の参考にしたり、歴史上の出来事を学習した際には、その出来事が起きた社会と自分の生活する社会とを比べ、その違いや共通性を明らかにする中で、自分の生活に生かせることを見出したりすることができるようになる。

(3) 「単元の学習問題を二つ設定する」とは

問題解決的な学習の「つかむ過程」で学習問題①(単元の学習内容の追究を目指すもの)と学習問題②(学習内容と自分とのつながりを思考するもの)の二つの学習問題を設定することである。学習問題①については、その解決に向け「追究する過程」で調べる活動を行い、「まとめる過程」では、調べたことを集約していく。学習問題②については「追究する過程」の各時間で、追究して分かったことと自分とのつながりを思考することで自分の考えをもち、「まとめる過程」では、その考えを交流する活動を行うものとする。本研究では、学習問題①を追究させながら学習問題②について思考させていくという学習過程にすることで、単元を通して常に自分とのつながりを思考させ、児童に歴史的事象を自分とのつながりから考えられる力を身に付けさせていく。

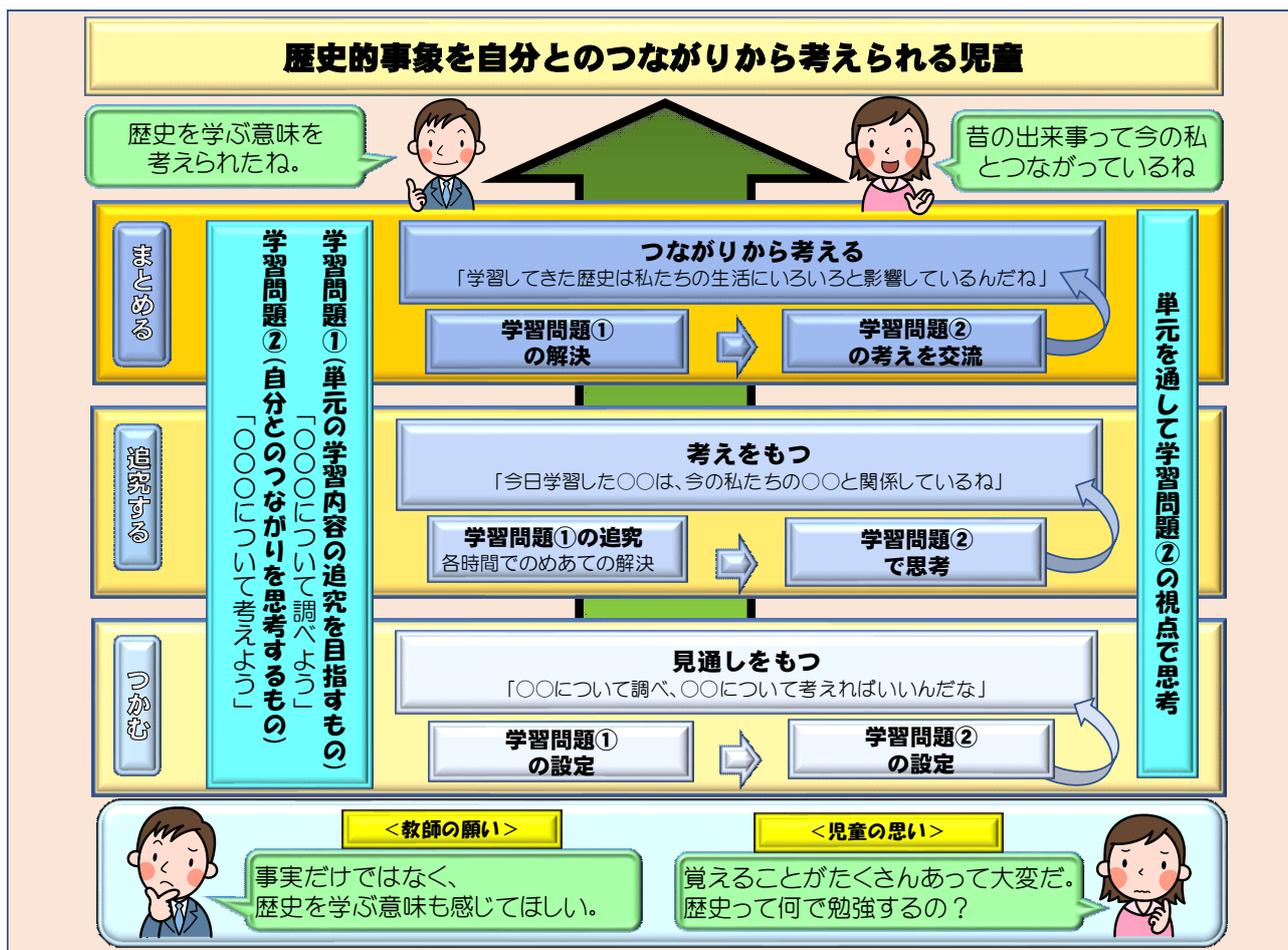
① 「学習問題①」の設定について

学習問題①については、単元の学習内容の追究とその理解をねらいとするものであり、学習問題②の前に設定する。また、単元の学習内容の追究のさせ方としては、事実や過程を追究させるより、原因や背景を追究させる方がよい。なぜなら因果関係を追究させて得られた歴史的事象の方が、児童が自分とのつながりを思考しやすいからである。具体的には「○○○なったのは、どんなことがあったからなのかを調べよう」というようなものがよい。「○○○」の部分には、単元で理解すべき中心概念が入るので、学習問題①を設定するためには、単元の最初で、児童にその単元の学習内容を概観させ、大筋の内容を理解させる必要がある。

② 「学習問題②」の設定について

学習問題②は、学習問題①で追究した歴史的事象について自分とのつながりを思考させるために設定するものである。そのため、学習問題①を追究して得られる歴史的事象が、今の自分と何かつながっているのではないかという思いを、児童とのやり取りの中で高めてから設定するとよい。また、思考のさせ方については様々なものが考えられる。例えば、歴史的事象についての自分の見解を考えたり、自分の生活する今の日本と比較して、違いや共通点、影響などを考えたりするなどが考えられる。単元の学習内容により、児童がどのようなつながりを考えられるかが違ってくるので、単元の内容をよく精査し、自分とのつながりをより考えられような問題を設定していく必要がある。

2 研究構想図



V 研究の計画と方法

1 授業実践の概要

対象	協力校 小学校第6学年 59名(2クラス)
実施期間	平成30年10月22日～11月5日 6時間
単元名	「世界に歩み出した日本」
単元の目標	日清・日露戦争、条約改正や産業・科学の発展により、我が国の国力が充実し、国際的地位が向上したことや、それらに伴って人々の生活や社会が変化したことが分かるとともに、それらの歴史的事象が現在の社会に与えた影響や意義について考えることができる。

2 検証計画

検証項目	検証の観点	検証の方法
見通し1	「つかむ過程」において、単元の学習問題を二つ設定することは、単元を通して「何を調べ、何を考えるか」ということを理解し、単元の見通しをもつことに有効であったか。	・学習の様子 ・ワークシート ・アンケート
見通し2	「追究する過程」において、各時間の学習内容を学習問題②の視点で考えることは、学習内容と自分とのつながりについて思考し、自分の考えをもつことに有効であったか。	・記録用映像
見通し3	「まとめる過程」において、学習問題②についての考えを交流することは、自分の考えを広げたり深めたりし、歴史的事象を自分とのつながりから考えることに有効であったか。	

3 抽出児童

抽出児童A	「歴史学習は覚えることが多いので、あまり好きではない」と考えているが、深い思考ができる。自分の生活する社会とのつながりを考えさせることで、歴史を学ぶ目的や大切さについても考えられるようにしたい。
抽出児童B	歴史学習に関心が高く、事実を基に考え、表現することができる。歴史を学ぶ目的は「受験のときに役立つ」と考えている。歴史的事象を自分とのつながりから考えることを通し、歴史を学ぶ意味についても考えられるようにしたい。
抽出児童C	歴史学習に関心が高いが、事実を基に考え、表現することが苦手である。歴史的事象を一面的に捉え短絡的に考えることが多い。具体的な視点を与えながら考えさせる場を多く設定し、歴史的事象をより広い視野から考え、表現できるようにしたい。

4 評価規準

社会的な事象への関心・意欲・態度	社会的な思考・判断・表現	観察・資料活用技能	社会的な事象についての知識・理解
日清・日露戦争、条約改正、科学の発展やそれらに関わる人物の働きや、世界の中での日本の立場に関心を持ち、進んで調べようとしている。	日清・日露戦争、条約改正、科学の発展やそれらに関わる人物の働きや、それらに伴って変化した日本の社会の様子を今の日本とのつながりから考え、表現している。	日清・日露戦争、条約改正、科学の発展やそれらに関わる人物の働きについて、地図、年表、その他の資料を活用して必要な情報を集め、読み取っている。	日清・日露戦争、産業の発展や条約改正により我が国の国力が充実し、国際的地位が向上したこと、また、それらによって人々の生活や社会が変化したことが分かっている。

5 指導計画

過程	時間	学習活動	研究上の手立て									
つかむ	1	○本時のめあてを確認する。 単元の学習問題をつくろう ○資料や発問を基に学習問題をつくる。 <単元の学習問題> ①日本が国力を充実させ、国際的地位を高めてきた背景には、どんな出来事があったのかを調べよう ②当時の出来事は、今の日本にどんな影響を与えているのか考えよう ○年表を参考に学習計画を立てる。 <どんなことについて調べるか> ・条約改正について ・2つの戦争について ・海外への進出(領土・人物)について ・人々の生活や社会の仕組みについて ○今の日本のよさについて考え、単元の最後に行う活動について確認する。 ○学習問題①②について、自分の考えを予想する。	●児童が学習問題①②、学習計画を導き出せるような資料の提示 <table border="1"> <thead> <tr> <th>提示する資料</th> <th>児童に気付かせたいこと</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>富岡製糸場(絵)</td> <td rowspan="3">殖産興業等、明治政府の政策を通して、日本の国力が伸びてきたこと</td> </tr> <tr> <td>紡績工場(写真)</td> </tr> <tr> <td>八幡製鉄所(写真)</td> </tr> <tr> <td>工業の発展(グラフ)</td> <td rowspan="2">日本が西洋の国々に追いついてきたこと</td> </tr> <tr> <td>西洋クラブへの仲間入りを描いた風刺画</td> </tr> </tbody> </table> ●単元の学習問題の設定 学習問題①(単元の学習内容の追究を目指すもの) 学習問題②(学習内容と自分とのつながりを思考するもの) ●児童が学習問題②を導き出せるようなクイズと発問 クイズ「今の日本は罪を犯した外国人を裁判できる、できない?」 「明治時代の日本は、税金を納めていなくても投票することができた、できなかった?」 発問「当時の日本で起きたことは、今の日本にどれくらい影響しているのかな?」	提示する資料	児童に気付かせたいこと	富岡製糸場(絵)	殖産興業等、明治政府の政策を通して、日本の国力が伸びてきたこと	紡績工場(写真)	八幡製鉄所(写真)	工業の発展(グラフ)	日本が西洋の国々に追いついてきたこと	西洋クラブへの仲間入りを描いた風刺画
		提示する資料	児童に気付かせたいこと									
富岡製糸場(絵)	殖産興業等、明治政府の政策を通して、日本の国力が伸びてきたこと											
紡績工場(写真)												
八幡製鉄所(写真)												
工業の発展(グラフ)	日本が西洋の国々に追いついてきたこと											
西洋クラブへの仲間入りを描いた風刺画												
追究する	2	○資料を参考に本時のめあてを確認する。 なぜ、日本は不平等条約を改正することができたのだろう ○教科書、資料集を利用して調べる。 ○調べたことを全体で共有する。 ○本時のまとめをし、学習問題②の考えをもつ。	●学習意欲を高める資料の提示 2時間目…ノルマントン号事件を風刺したまんが(絵) 3時間目…朝鮮をめぐる、日本、ロシア、中国(絵) 4時間目…日本語で教育される朝鮮の子供たち(写真) 5時間目…重工業の発展(写真) ●学習内容を学習問題②の視点で考える									
	3	○資料を参考に本時のめあてを確認する。 二つの戦争によって、日本と世界の国々	2時間目 領事裁判権をなくせたことは、今の日本の国際化に影響している。									

	<p>の関係はどうなったのだろう</p> <p>○教科書、資料集を利用して調べる。 ○調べたことを全体で共有する。 ○本時のまとめをし、学習問題②の考えをもつ。</p>	<p>3時間目 日清戦争でたくさんの賠償金をもらったことは、今の日本の工業の発展につながっている。</p> <p>4時間目 関税自主権を回復できたことは、今の日本の経済発展につながっている。</p> <p>5時間目 民主主義の考えが広まったことは、今の日本の平和につながっている。</p>
4	<p>○資料を参考に本時のめあてを確認する。</p> <p>日本の海外への進出（領土・人物）は日本の立場をどのように変えたのだろう</p> <p>○教科書、資料集を利用して調べる。 ○調べたことを全体で共有する。 ○本時のまとめをし、学習問題②の考えをもつ。</p>	
5	<p>○資料を参考に本時のめあてを確認する。</p> <p>日本が国力を伸ばしたことで、日本はどのように変わってきたのだろう</p> <p>○教科書、資料集を利用して調べる。 ○調べたことを全体で共有する。 ○本時のまとめをし、学習問題②の考えをもつ。</p>	
まとめ	<p>6 ○調べたことをまとめ、学習問題①の解決を図る。 ○本時のめあての確認をする。 (学習問題②を本時のめあてとする)</p> <p>当時の出来事は、今の日本にどんな影響を与えているのか考えよう</p> <p>○既習事項を基に個人で考える。 ○班で、関係図を作る活動を行う。 ○班の考えを全体で共有する。 ○当時の人々へのメッセージを書く。 ○単元全体を振り返る。</p>	<p>●単元の学習問題②を解決する活動を設定</p> <ul style="list-style-type: none"> ・当時の出来事と今の日本へ与えた影響を表す関係図を作る。 (個人で考え→班で作成→全体で共有) ・自分の思い付かなかった考えに触れる。 <p>関税自主権を回復したことは、今の日本の産業の発達に影響していると思ったけど、産業が発達したことで、今の日本が世界に認められるようになったんだね。</p> <p>●単元全体の振り返り</p> <p>明治・大正時代のいろいろな出来事は、今の日本に大きな影響を与えていることが分かった。昔の人達のおかげで今の日本があるんだね。私たちも、これからの未来によい影響を与えられるように、がんばっていきたい。</p>

VI 研究の結果と考察

1 「つかむ過程」において、単元の学習問題を二つ設定することにより、単元を通して「何を調べ、何を考えるのか」ということを理解し、単元の見通しをもつことができたか。

(1) 結果

第1時 めあて「単元の学習問題をつくろう」

まず、児童に学習内容をより身近に感じさせるために、本単元で学習する明治・大正時代が今から何年前なのかを確認し、これから学習する時代がそれほど昔のことではないことを認識させた。次に、資料の提示や発問から二つの学習問題を導き出した。具体的には、日本の産業の発達の変化が分かる写真資料やグラフから、明治以降の日本が着実に国力を充実させてきたこと、日本の西洋クラブへの仲間入りを描いた風刺画から、日本が国際的地位を向上させてきたことを捉えさせた。そこで、児童に「明治維新後、日本は順調に国力を充実させ、国際的地位も向上させてきたようだが、その背景には、どんなことがあったのかな」と質問した。「その要因は何なのか」という児童の意識が高まったところで、学習問題①「日本が国力を充実させ、国際的地位を高めた背景には、どんな出来事があったのかを調べよう」を設定した。さらに、学習問題②を設定するために、当時の外国人に対する裁判の制度と選挙制度を現在の制度と比較するクイズを行った。これらの制度は

現在と大きく異なるが、明治から大正にかけて大きく改善されてきたものでもある。その事実を伝えながら、明治・大正の出来事が今の日本の社会に大きく影響していることを確認した後に、「明治や大正時代に起きた出来事は、今の日本にどれくらい影響しているのかな」という質問をした。過去と現在のつながりに対する児童の意識が高まったところで、学習問題②「当時の出来事は、今の日本にどんな影響を与えているのかを考えよう」を設定した。その際、この学習問題②については追究する過程の各時間で考えていくことと、まとめる過程では学習問題②の視点で思考してきたことを全体で交流することを伝え、単元を通して何をどのように思考していくかということを明らかにした。その後、年表を基に、この時代の出来事を大まかに調べ、単元の学習計画を立てた。また、学習問題②を考える際に、今の日本とのつながりを捉えやすくするために、今の日本の特徴を児童に考えさせた。児童からは「今の日本は平和、豊か、発展している」など日本のよさが挙げられた。最後に、二つの学習問題に対しての予想と本時の振り返りを行った。学習問題①の予想については、二つの学習問題を設定する際に利用した資料などから考えている児童が多かった。学習問題②の予想については、児童のイメージした出来事が様々で、記述の内容には差があった。ただ、いずれにしても、自分なりの予想をもつことはできた。また、本時の振り返りには、過去の出来事と今の日本とのつながりを意識し、「今の日本と比べて考えていきたい」というような記述が多く見られた。抽出児童の振り返りも同様な記述が見られた(図1)。

	学習問題①「日本が国力を充実させ、国際的地位を向上させた背景にはどんな出来事があったか」の予想	学習問題②「当時の出来事は、今の日本にどんな影響を与えているのか」の予想	本時の振り返り
抽出A	(その背景には) 外国との話合いに日本が関われるようになったことがあると思う。	今は争いがないので、外国と話し合う仕組みができたことが、今の平和に影響している。	だんだん今の日本に近づいてきた。今の日本と大きく関わっていてすごいと思いました。
抽出B	(その背景には) 世界のいろいろな国々と関わりが深まっていったことがあると思う。	昔に決められたことが、今の日本の生活の中で使われている。	日本が昔やった出来事が今の日本につながっていると思うので、しっかり勉強していきたいです。
抽出C	(その背景には) いろいろな事件や問題があると思う。	当時のことを見習って、よいことと悪いことを決めることができる。	学習問題を意識して、これから積極的に発表していきたいと思いました。

図1 抽出児童の学習問題①②に対しての予想と本時の振り返りの記述

(2) 考察

単元学習後に行った児童アンケート「二つの学習問題を設定したことは、その後の学習でどんなことをするかよく分かりましたか」で、90%以上の児童が肯定的に答えたことから考えると、つかむ過程で二つの学習問題を設定したことは、今回の単元において、児童に学習の見通しをもたせることに有効に働いたと考える(図2)。

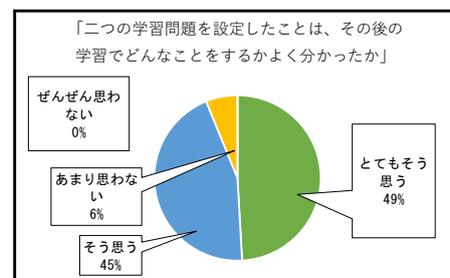


図2 児童アンケートの結果

S 1	二つの学習問題があることで、一つ目の学習問題を達成して終わりではなく、達成したことを二つ目につなげることができた。
S 2	学習問題の①と②を設定することで、学習問題を意識しながら毎時間学習できた。
S 3	最後にどんなことが分かればいいのかははっきりしていた。
S 4	何を知り、何を考えればよいのか分かりやすかった。
S 5	二つの学習問題があることで、当時のことと今のことに関係付けながら学習することができた。
S 6	学習問題②を考えることで、今の日本とのつながりがあるのか分かったし、興味をもてた。次の授業が楽しみになった。
S 7	今回は今までと比べて分かりやすく楽しく学ぶことができた。社会は苦手だが、このような授業なら楽しめるかもしれない。

図3 事後アンケート「今回の学習の仕方(二つの学習問題の設定したこと)についての感想」(一部抜粋)

その要因としては、単元の学習問題を学習問題①と学習問題②の二つに分けることで、児童が単元を通して「何を調べるのか」「何を考えるのか」を明確にできたこと、また、学習問題②を単元のどこでどのように思考していくのかを明確に示したことで、児童が単元の学習における思考の流れをイメージできたことが考えられる。これらのことは、単元学習後に書かせた児童の感想（学習問題を二つ設定したことについて）の中に「学習問題を意識できた」「どんなことが分かればよいかははっきりしていた」など、この単元で自分がやるべきことを明確にできたことが多く記述されていたことや、本時の振り返りに「昔と今の出来事のつながりを考えたい」というように、学習問題②を意識して本単元に対する思考の方向性を示していた記述が多数見られたことから分かる（前ページ図1・図3）。

他の要因としては、二つの学習問題について予想を立てさせたことも、「自分はこう考えたが、実際はどうか」という意識を高め、学習に対する目的意識をもたせることにつながったと考える。ただ、学習問題②に対する予想は、その内容に個人差が大きかったので、児童がもっと具体的に予想できるような学習問題にしていく必要性を感じた。

さらに、学習問題①に出てくる「日本が国力を充実させ、国際的地位を高めたこと」は、本来この単元で学習する中心的概念になるものである。学習問題①を設定するために、学習の最初の段階で中心概念を捉え、それを裏付けるために追究していくというような学習過程になったことも、児童の学習に対する目的意識をより高めたものと思われる。

以上のことから、つかむ過程において、単元の学習問題を二つ設定したことは、単元を通して「何を調べ、何を考えるか」ということを理解し、単元の見通しをもつことに有効であったと考える。

2 「追究する過程」において、各時間の学習内容を学習問題②の視点で考えることにより、学習内容と自分とのつながりについて思考し、自分なりの考えをもつことができたか。

(1) 結果

追究する過程は、第2時から第5時までの4時間を使って行った。この4時間に関しては、同じ流れで学習を進めた。具体的には、まず、二つの学習問題を提示し「本単元で何を調べ、何を考えるのか」を確認した。次に、学習問題①を追究させるために、資料を活用しながら本時のめあてを設定した。その後、本時のめあてを達成させるために、教科書や資料集を使い個人で調べ学習を行わせ、調べたことを全体で共有した。最後に、本時のまとめをするとともに、各時間の学習内容を学習問題②の視点で思考させ、自分の考えをもたせた。

なお、学習問題②の視点で思考させる際に、今の日本とのつながりを考えやすくするために、本時のめあてを設定した後には、学習内容と今の日本とのつながりを想起できるような資料を提示し、今の日本とのつながりを意識させた。

第2時 めあて「なぜ、日本は不平等条約を改正することができたのだろう」

まず、ノルマントン号事件の風刺画を利用し、その時の日本人の気持ちを考えさせた。児童からは「なぜ、船長は軽い罪で許されたんだ、許せない」「日本人が見捨てられて悔しい」との意見が出された。不平等条約がその後どうなったのかという児童の意識を高めながら、本時のめあてを設定した。その際、今の日本の外国人観光客数のデータを示し、現在では不平等条約が改正され、たくさん外国人を迎え入れている事実を知らせることで、本時での学習が今の日本とつながっていることを意識させた。次に、不平等条約の改正に向けて日本が取り組んだこと、誰がいつ不平等条約の改正に成功したのかなどを視点に教科書、資料集を使い個人で調べさせた後、クラス全体で調べたことを共有した。最後に、本時のまとめを行うとともに、本時で学習したことを学習問題②の

抽出児童A	抽出児童B	抽出児童C
外国と交渉したことは、今の日本の政治の仕方に影響している。	陸奥宗光が条約改正したことは、日本の今の政治に影響している。	外国との交渉は、今の日本の政治に似ている。

図4 第2時の抽出児童の学習問題②に対する考え

視点で思考させ、自分の考えをもたせた。学習問題①を追究する上で、児童が取り上げた出来事としては「欧米へ使節を送ったこと、外国と交渉したこと、条約改正をしたこと」などがあつた。また、それらを学習問題②の視点で考えた際には「外国との関係、政治の仕方、産業の発達」などが挙げられた。抽出児童の考えはほぼ同じような内容であり、やや具体性に欠けるものであつたが、本時の学習内容と今の日本をつなげて記述することはできていた(前ページ図4)。ただ追究する過程の最初の時間であつたためか、学習問題②の趣旨に合わない記述をしていた児童が数名見られた。

第3時 めあて「二つの戦争によって、日本と世界の国々の関係はどうなったのだろう」

まず、日本、中国、ロシア、朝鮮との関係を描いた風刺画を示し、その風刺画が何を表現しているのかを考えさせた。児童からは「日本と中国が朝鮮をねらっている」「ロシアが日本と中国の様子を見ている」などの意見が出された。これらの国々が当時どのような関係になっていたのかという児童の意識を高めながら、本時のめあてを設定した。その際、今の日本と中国、ロシア、韓国との関係を確認させることで、本時の学習内容がそれらの国々との現在の関係に何か影響しているのではないかという意識を高めさせた。次に、日清・日露戦争の起きた年、原因、結果とその後の様子などを観点に個人で調べさせた後、クラス全体で調べたことを共有した。最後に、本時のまとめを行うとともに、本時の学習内容を学習問題②の視点で思考させ、自分の考えをもたせた。学習問題①を追究する上で、児童が取り上げた出来事としては、「二つの戦争をしたこと、戦争に勝利したこと、戦争に不満をもった人がいたこと」などがあつた。また、それらを学習問題②の視点で考えた際には「日本の平和、政治の仕方、日本の国力、領土問題、軍事力」など様々なものが挙げられていた。抽出児童は戦争をしたことや戦争に勝利したことを取り上げ、その影響については、それぞれ違うものと結びつけていた(図5)。本時は追究する過程の二時間目であつたせいか、ほとんどの児童が学習問題②の趣旨に合った記述ができていた。また、日本に与えている影響についての記述が前時に比べると全体的に具体的になっていた。

抽出児童A	抽出児童B	抽出児童C
二つの戦争は今の日本のアジア人気や日本の領土問題につながっている。	二つの戦争に勝利したことは、今の日本に勇気を与えている。	日本が戦争したことは、今の日本の平和につながっている。

図5 第3時の抽出児童の学習問題②に対する考え

第4時 めあて「日本の海外への進出は日本の立場をどのように変えたのだろう」

まず、日本語で教育される朝鮮の子どもたちの写真や海外で活躍した野口英世の写真を示し、日本が領土を広げたり、国際社会で活躍する日本人が増えたりしたことを確認しながら、本時のめあてを設定した。その際、現在の日本と朝鮮の関係を確認したり、日本のノーベル賞受賞者数を知らせたりすることで、本時の学習内容が今の日本に何か影響を与えているのではないかということ意識させた。次に、韓国併合で日本がしたことと、それに対して朝鮮の人々がしたこと、また、当時世界で活躍した日本人が誰で、どんなことをしたのかを観点に個人で調べさせた後、クラス全体で調べたことを共有した。最後に、本時のまとめをするとともに、本時の学習内容を学習問題②の視点で思考させ、自分の考えをもたせた。学習問題①を追究する上で児童が取り上げた出来事としては「日本が韓国併合したこと、日本人が外国で活躍したこと、医学が発展したこと」などがあつた。また、それらを学習問題②の視点で考えた際には「今の朝鮮との関係、政治の仕方、医学の進歩、外国との関わり、技術の発達、外国からの信頼」など様々なものが挙げられた。本時における抽出児童の考えも、それぞれ違うものであつた(図6)。本時は追究の過程の3時間目であり、教師が簡単な指示をするだけで、児童は進んで自分の考えを記述することができた。

抽出児童A	抽出児童B	抽出児童C
韓国併合したことは、今の日本と韓国の関係に影響を与えている。	海外で活躍した人物がいたことは、日本の医学の進歩に影響している。	海外で活躍した人物のおかげで、今の日本は発展している。

図6 第4時の抽出児童の学習問題②に対する考え

第5時 めあて「日本が国力を伸ばしたことで、日本はどのように変わってきたのだろう」

まず、明治時代の東京の人々の様子を表現した絵と大正時代の人々の生活の様子を写した写真資料を比較させた。児童からは「大正時代の終わり頃は明治初期とはだいぶ違うな」「大正時代はどちらかというとな今の日本に近いな」というような意見が出された。明治から大正にかけての時代だけでも社会の様子がだいぶ変わってきたという児童の意識を高めながら、本時のめあてを設定した。その際、今の日本の様子を写した写真を提示し、本時で学習する内容が現在へもつながっていることを意識させた。次に、当時の社会で起きた問題、また、それに対して人々が起こした運動を観点に個人で調べさせた後、クラス全体で調べたことを共有した。最後に、本時のまとめをするとともに、本時の学習内容を学習問題②の視点で思考させ、自分の考えをもたせた。学習問題①を追究する上で児童が取り上げた出来事としては「女性運動が起きたこと、差別をなくす運動が起きたこと、環境問題が起きたこと」などがあつた。また、それらを学習問題②の視点で考えた際には「今の日本の選挙制度、平等な社会であること、差別がないこと、環境が守られていること」など社会の制度や仕組み、人々の取組と結びつけて考えている児童が多かつた。抽出児童もそれぞれに今の日本と結び付けながら、自分の考えをもっていた(図7)。

抽出児童A	抽出児童B	抽出児童C
女性運動があつたことが、今の日本の女性の地位に影響している。	人々が行つた運動は、今の日本の平和につながっている。	女性の地位を高める運動は、今の日本の選挙制度に影響している。

図7 第5時の抽出児童の学習問題②に対する考え

(2) 考察

単元学習後に行つた児童アンケート「各時間で学習問題②の考えをもてたか」という質問に対して95%以上の児童が「自分の考えをもてた」と答えている(図8)。また、ほとんどの児童が、各時間の学習内容を学習問題②の視点で思考した自分の考えを、ワークシートに記述することができていた。これらのことから、児童は各時間の学習内容と自分とのつながりについての考えをしっかりともつことができたと考える。

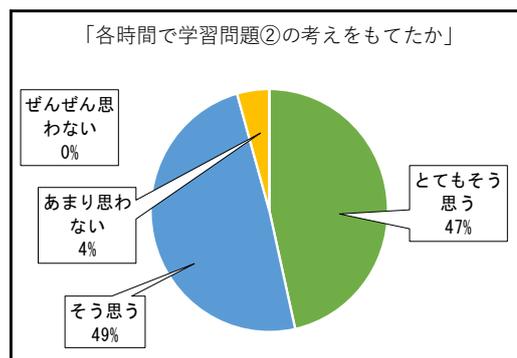


図8 児童アンケートの結果

これは、追究する過程の各時間に、学習問題②の視点で思考させる場面を設定したこと自体が有効であつたと考える。

なぜなら、この学習問題②がなければ、児童の学習は各時間の学習内容の理解が中心となり、自分とのつながりについての考えをもつことはなかつたと考えるからである。

また、本時のめあてを設定した際に、本時の学習内容と今の日本とのつながりを感じる資料を提示したことは、授業の最後で学習問題②の視点で思考させる際に、今の日本とのつながりを想像し

	最初に書いた学習問題②に対する考え	2回目以降に書いた学習問題②に対する考え
S1	話合いで解決するところは、今の日本の政治に似ている。	野口英世が外国で病気を治したことなどは、今の日本が外国から信頼されていることに影響している。(第4時)
S2	今回の出来事は、今の日本の外国との友好関係に影響している。	今回の二つの戦争の結果は、今の日本の世界からの見られ方や、今の日本の平和に影響している。(第3時)
S3	不平等条約を改正したことは、今の日本と外国の関係に影響している。	田中正造さんが足尾銅山鉱毒事件に取り組んだことは、今の日本がよりよい環境を目指していることにつながっていると思う。(第5時)

図9 学習問題②に対する考えの記述の変化

やすくさせることに効果的であったと考える。

さらに、ワークシートに学習問題②に対する記述の仕方を書き方の見本を示したことも、児童のスムーズな思考に有効に働いたと考える。しかし、記述の仕方を書かせたことで、児童の書き方が限定されてしまい、記述内容に広がりがなくなってしまうたり、具体性に欠けてしまったりしたので、改善の必要性を感じた。

今回は第2時から第5時までの各時間で、学習問題②を視点に考えてきたが、初めは趣旨に沿わない考えや具体性に欠けていた児童の考えの記述が、同じことを繰り返すことで、より具体的な記述に変わってきた(前ページ図9)。そのことを考えると、一回では上手く思考できない児童も、同じ視点で繰り返し思考していくことで、より深い考えをもてるようになっていくと感じた。

以上のことから、各時間の学習内容を学習問題②の視点で考えることは、学習内容と自分とのつながりについて思考し、自分なりの考えをもつことに有効であったと考える。

3 「まとめる過程」において、学習問題②についての考えを交流し、自分の考えを広げ深めることにより、歴史的事象を自分とのつながりから考えることができたか。

(1) 結果

【第6時】 めあて「当時の出来事は、今の日本にどのような影響を与えているのかを考えよう」

まず、追究する過程で調べてきたことを基に、単元のまとめをするとともに、学習問題①の解決を図った。その後、学習問題②について考えてきたことを交流させるための活動を行った。まずは、今までの学習を振り返り、学習問題②についての考えを各自のワークシートに記述させた。これについては追究する過程の各時間で考えてきたことでもあるので、どの児童も素早く記述することができた。5分程度の時間であったが、一人平均三つくらいの考えを記述することができた。次に、その考えを班(3~4人)で交流する活動を行った。今回は当時の出来事とそれが与えている影響を線で結びつける関係図を、模造紙にまとめることで、各自の考えを交流させた(図10・11)。15分程の活動ではあったが、各班とも自分の考えを発表し合いながら、関係図にま

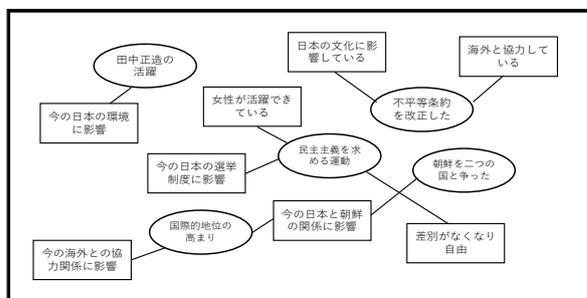


図10 ある班が作成した関係図



図11 班での交流(関係図作り)の様子

抽出児童A	抽出児童B	抽出児童C
日本の昔を見ると、多くの歴史とともに、その時の人々の思いを知ることができた。日本の昔を知ることが今、そして未来の日本を変えていく種になることが分かった。自分たちはこれからの日本をよりよいものにする義務があることを強く感じる。	当時の人々のやったことは、今の日本のプラスになったと思います。当時の人々は苦しい思いなどと思ったと思うけど、そのことが、今の平和な日本や世界のためになってくれたので感謝したいです。自分にとって、明治・大正時代の人々はとてもよいことをしてくれたと思います。	国際的地位を高めてきた背景には、条約を改正したことや二つの戦争や韓国を併合したこと、いろいろな運動をしたことがあった。当時のいろいろな出来事は、今の平和に大きくつながっていると思う。
【分析】過去の出来事が、現在、そして未来へとつながっていることを捉えられた。さらに自分のこれからの生き方まで考えられた。	【分析】過去の人々の努力が現在につながり、自分の生活の役に立っていると考えられた。	【分析】過去の出来事が、自分たちの生きる今の日本とつながっていることを考えられた。

図12 抽出児童の単元を通しての振り返り(上)とその記述に対する教師の分析(下)

抽出児童 A	抽出児童 B	抽出児童 C
女性運動をしてくれたおかげで、今の差別のない世界になりました。	明治・大正時代の人々の活躍は今の日本や世界のためになっています。	みんながいろいろがんばってくれたので、今は平和です。ありがとう。

図13 抽出児童の明治・大正時代への人々へ向けてのメッセージ（一部抜粋）

とめることができた。同じ出来事でも、児童が考えた影響は様々であり、一つの出来事から何本もの線をつなげることができた。活動

S 1	全体の授業を通して、条約を改正するために交渉したこと、差別をなくすために運動したことなど全てが今の日本に影響しているのだと感じました。
S 2	明治・大正のできごとがよいことにも悪いことにもつながっていると分かった。
S 3	これからも歴史はつながっていくので、明治の人の知恵がいかされるようになってほしい。
S 4	明治・大正に活躍してくれた人のおかげで、今の日本があることを改めて感じた。
S 5	昔の日本人がたくさんがんばってくれたおかげで、今の日本は外国からも認められているのだと思った。

図14 第6時の抽出児以外の主な単元の振り返り（一部抜粋）

終了後には班の模造紙を黒板に掲示し、教師が各班の特徴を紹介した。その後、学習内容と自分とのつながりをさらに感じさせるために、「明治・大正の人々へのメッセージ」ということで、当時の人々へ向けて自分の思いを書かせた。「条約改正をしてくれたことや、病気の治し方を発見してくれたことで、今の日本の工業や医学は発展しています」「現在の日本は明治・大正時代の人々の頑張りや努力のおかげです。ありがとう」などの記述が見られ、児童は当時の人々の存在をより大きく感じるとともに、明治・大正時代と今の日本とのつながりをさらに意識することができた。そして最後に、本単元を通しての振り返りをしたが、90%以上の児童が、単元全体の学習内容を自分とのつながりから考えて記述することができていた。さらにそのうちの約25%の児童は、自分とのつながりを考えた上で、今後の自分の生き方にまで言及した記述をすることができていた(図14・15)。抽出児童のメッセージや振り返りにも同様な記述を見ることができた(前ページ図12・図13)。

(2) 考察

単元学習後に行った児童アンケート「歴史を学ぶことは何の役に立つと思うか」という質問に、「昔のことをこれからに生かせる」「今とのつながりを考えられる」と答えた児童が合わせて60%を超えた。これらの回答のように歴史を学ぶ意味を踏まえた回答をした児童は全体の70%となった。

学習前に行った同じアンケートでは、歴史を学ぶことの役割を知識を身に付けることとして捉えていた児童が約70%だった結果と比較すると、児童の歴史学習に対する意識が大きく変わったことが分かる(図16・次ページ図17)。また、学習後のアンケートで「学習内容と自分とのつながりを意識できたか」という質問には95%の児童が肯定的に答えており、「とても思う」と答え

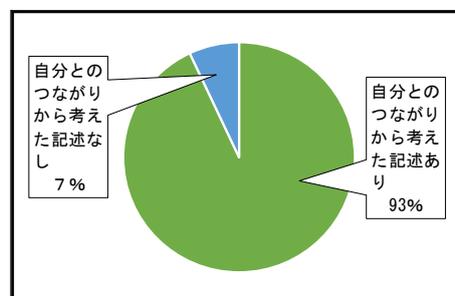


図15 単元全体の振り返りにおける、歴史的な事象を自分とのつながりから捉えた記述の有無

事前アンケート（前単元について）	事後アンケート（本単元について）
これからの勉強（中学・受験など）に役立つ(21%)	昔のことから学び、これからに生かせる(35%)
昔のことを知ることができる(20%)	昔のおかげで今ができている。今とのつながりを考えられる(26%)
人に説明したり、教えたりすることができる(15%)	昔のことを知ることができる(10%)

図16 児童アンケート「歴史を学ぶことは何の役に立つと思うか」の事前と事後の上位三つの意見

ている児童も半数を超えている。事前のアンケートと比較しても、今回の単元では、学習内容と自分とのつながりをだいた意識して学習することができたことも分かる（図18）。

これらの児童の意識の変化は、単元を通しての振り返りで、多くの児童が学習内容を自分とのつながりから考えていたこと、さらに今後の自分たちの生き方についてまで考えられた児童がいたことから読み取ることができる。抽出児童も同様に学習内容を自分とのつながりから考えることができおり、抽出児童Aについては、これからの自分の生き方にまで言及できていた（前々ページ図12）。

その要因としては、追究する過程の各時間で思考してきた学習問題②の考えを、関係図を作ることで交流し、自分とは違う考えに触れたことや、単元全体の

学習内容を結びつけることで、より多くのことが自分たちとつながっていることに気付いたことで、自分の考えを広げたり深めたりすることができたからだと考える。また、交流した後に、明治・大正の人々へ向けてメッセージを書かせたことも、過去と自分とのつながりをより強く感じさせ、学習した歴史的事象と自分とのつながりについての考えを、より深めさせることに効果的に働いたと考える。

以上のことから、学習問題②についての考えを交流し、自分の考えを広げ深めたことは、歴史的な事象を自分とのつながりから考えることに有効であったと考える。

VII 研究のまとめ

1 成果

問題解決的な学習過程の中に、単元の学習問題を二つ設定し、自分とのつながりを考えながら学習に取り組ませたことは、歴史的な事象を自分とのつながりから考える力を育てることに有効であった。

- (1) 「つかむ過程」において、単元の学習問題を二つ（学習問題①、学習問題②）設定することにより、児童は単元の中で「何を調べ、何を考えるのか」ということを明確にし、単元の見通しをもつことができた。
- (2) 「追究する過程」において、各時間の学習内容を学習問題②の視点で考えたことにより、児童は学習内容と自分とのつながりを認識し、学習した歴史的な事象と自分とのつながりについての考えをもつことができた。
- (3) 「まとめる過程」において、学習問題②について考えてきたことを交流する活動をしたことにより、児童は単元を通して思考してきた自分の考えを広げたり深めたりし、歴史的な事象を自分とのつながりから考えることができた。
- (4) 単元全体を通して、常に学習問題②の視点で思考したことで、つながりのある学習過程となり、児童の学習に対する意欲を向上させるとともに、思考をより深めることができた。

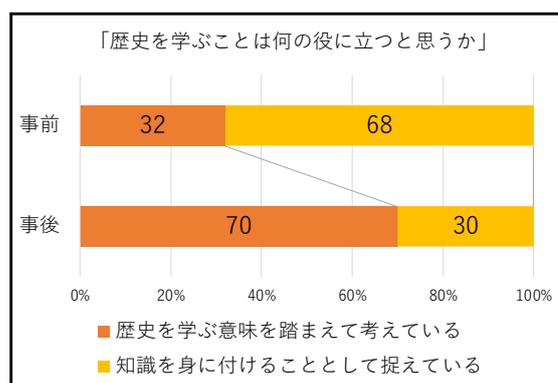


図17 児童アンケートの結果

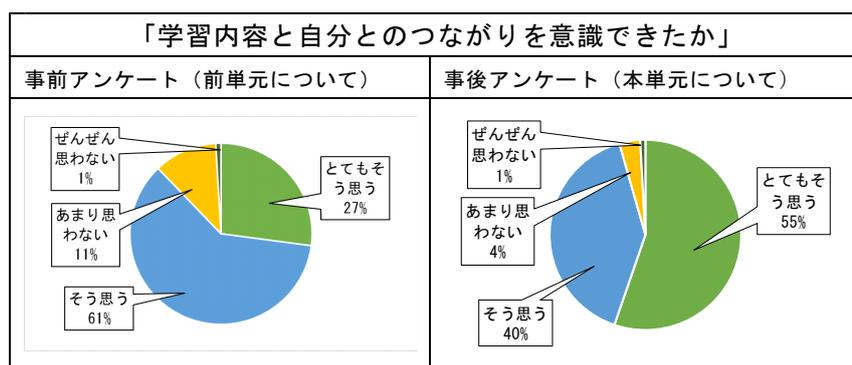


図18 児童アンケートの事前と事後の結果の比較

2 課題

- (1) 「つかむ過程」においては、単元の学習内容と自分とのつながりをより考えられるような学習問題を設定していく必要がある。
- (2) 「追究する過程」においては、各時間の学習内容と自分とのつながりをより具体的に考えられるように、ワークシートなどを工夫をしていく必要がある。
- (3) 「まとめる過程」においては、学習問題②についての自分の考えを、より広くより深められるような効果的な交流活動を考えていく必要がある。

VIII 提言

児童が歴史を学ぶ意味を考えながら授業に取り組めるようにするには、やはり歴史的事象と自分とのつながりを考えながら学習を進めることが大切である。本研究では単元の学習問題を二つ設定することを手立てとして自分とのつながりを考えられるようにしてきたが、その有効性は十分に感じる事ができた。そこで、今回の実践を基に、小学校歴史学習の全ての単元における学習問題例を作成した。(資料として添付)あくまでも例に過ぎないが、歴史の学習を行う際には、これを参考にして学習問題を設定してみるとよいのではないかと考える。

<参考文献>

- ・文部科学省 『小学校学習指導要領』 (2017)
- ・文部科学省 『小学校学習指導要領社会編解説』 (2018)
- ・澤井 陽介 著 『澤井陽介の社会科の授業デザイン』 東洋館出版(2015)
- ・北 俊夫 向山 行雄 著 『新・社会科授業研究の進め方ハンドブック』 明治図書(2014)
- ・北 俊夫 著 『なぜ子どもに社会科を学ばせるのか』 文溪堂(2012)

<担当指導主事>

天田 直木 関 喜史